

県内初 第三者継承のプロセスを発表

第41回全農酪農経営体験発表会

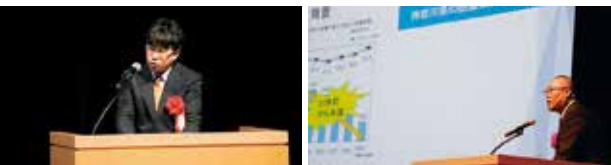
11月30日、東京都大手町の日経ホールにて、第41回全農酪農経営体験発表会が開催され、北海道、岩手県、神奈川県、島根県、宮崎県から酪農家および酪農組織や県行政が一堂に集まり、それぞれの取り組み事例について発表を行った。

本県からは、リトルリバーファーム（秦野市）の小川翔吾代表と県畜産技術センター普及指導課の仲澤慶紀課長が「『地元で酪農経営をしたい』～神奈川県初の新規参入・第三者継承の道のり～」と題して、県内初となった第三者継承システム構築と牧場継承に至るまでのプロセスを発表した。

小川氏は幼少期より地元で酪農経営をしたいという夢を持ち、学歴とキャリアを積んできた。そんな中、1年後に廃業する予定の酪農家と出会い、継承の協議を進めてきたが、詳細な条件協議の円滑化や法的リスク回避の観点から県の支援を受けることに。市・都市農業支援セン



ター・農業委員会・公庫・県畜産技術センターで「秦野市酪農事業継承会議」を立ち上げ、移譲者と継承者が納得する形で第三者継承が成立するよう各方面から必要となる手続き等進行管理が行われた。発表の最後に小川氏は「自分の経験を生かし、県内の酪農家を増やす後押しをしたい」と今後の意気込みを語った。



地元で酪農家になる夢をかなえた小川さん(左)と支援した仲澤課長(右)

ター・農業委員会・公庫・県畜産技術センターで「秦野市酪農事業継承会議」を立ち上げ、移譲者と継承者が納得する形で第三者継承が成立するよう各方面から必要となる手続き等進行管理が行われた。発表の最後に小川氏は「自分の経験を生かし、県内の酪農家を増やす後押しをしたい」と今後の意気込みを語った。

第41回を迎えた本発表会は、「未来を創る『酪農のなかま』」と題され、例年行っている経営に関する審査は行わず、広く関係組織から酪農全般に関する優良な取り組み事例を募った。特別企画では、過去に特別賞を受賞した酪農家や、JA全農グループとオンライン牧場を開催している酪農家が消費者への理解醸成に関する活動について発表を行った。

また同日は、第17回全農学生「酪農の夢」コンクールの表彰式も行われ、県立相原高等学校2年の島田里桜さんが書いた「私の描く未来の酪農設計図」が優良賞を受賞した。



【担当職員よりひとこと】

酪農情勢が厳しい中、全国の酪農のなかまが鋭意努力して取り組む事例は大変勉強になりました。特に都市酪農の本県の事例は、審査委員からも感嘆の言葉をいただき、関係者一同未来につなげる勇気になると感じました。

(畜産部 畜産事業センター相談課 原田弘子職員)

JAの生活購買品で心身の健康をサポート

第2回生活担当職員商品研修会

生活課は12月12日に「第2回生活担当職員商品研修会」を開催した。JAで取り扱う生活購買品の知識や活用法を習得し、組合員への事業推進につなげることを目的とし、7JAから16人の職員が参加した。

同研修会は「心と身体の健康」がコンセプトで、取引先7社を講師役に招いた。足柄茶のおいしい淹れ方や補聴器メーカーによる聴力チェックなど、実演を交えて行われた。参加者は五感をフルに使って商品の使

用感を確かめ、他社製品との違いや特徴を理解した。

参加者からは「商品の存在は知っていたが、説明を受けることでお客さまに勧めやすくなった」、「今回の体験をもとに推進をしたい」などの声が寄せられた。



オーダーメイドウィッグの寸法方法実演のようす

繁忙期に備えリニューアル 空間効率や導線を意識

直売所コンサルティング

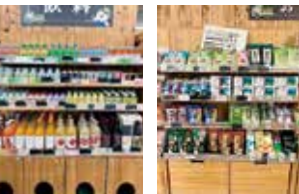
生活課では県内JA農産物直売所の売上強化を目的に売り場のコンサルティングを実施し、これまでに3店舗の売り場のリニューアルを手がけた。このたび新たに、JAかながわ西湘朝ドラファ～ミㇿ成田店、JAセレサ川崎セレスモス麻生店の2店舗をリニューアル。売り場のレイアウトや空間効率を見直し、それぞれ100点近い新商品を導入した。

11月30日にリニューアルした朝ドラファ～ミㇿ成田店は直売所コンサルティングでは初めて商品棚を増設。売れ筋のカテゴリである菓子や、今まで取り扱いが少なかった酒類、冬の季節に合わせた麺・鍋食材のアイテムを強化した。12月の売り上げは好調で、リニューアルした商品群の売上点数は前年度比で150%。金額ベースでは157%にのびた。

12月7日にリニューアルしたセレスモス麻生店は、近隣に大型スーパーなどの競合店の出店が目立ち、魅



朝ドラファ～ミㇿ成田店 改装前後の比較



セレスモス麻生店 改装前後の比較

次世代に県産農畜産物の魅力伝える

食育・産学連携活動のご紹介

やまゆりポーク食育教室

やまゆりポーク生産者協議会は、11月から12月の期間、県内の小学校3校で「やまゆりポーク」に関する食育授業を実施し、延べ264人の児童が参加した。

授業では同協議会の生産者である安西雄次さん、石崎琢也さんを始め、県畜産技術センターやJA全農かながわの職員らが講師を務めた。畜産の基礎知識や「やまゆりポーク」のこだわりの飼育法などを伝え、子どもたちからは真剣に話を聞いている様子が伺えた。また同協議会は各小学校へ「やまゆりポーク」を寄贈し、給食で振る舞われた。



石崎さんは、「愛情をこめて育てているので、これを機にファンになってくれたらうれしい」と話した。

昭和女子大学 JA☆ベジラボプロジェクト

三浦市農協とJAよこすか葉山、JA全農かながわは12月9日、昭和女子大学（東京都世田谷区）の学生8人を対象に三浦大根と早春キャベツの収穫体験を行った。栄養士や管理栄養士を目指す学生が三浦半島産の野菜を使ったレシピを考案するという産学連携プロジェクトの一環で、農業や生産現場への理解を深めることが目的だ。

当日、学生たちは、三浦市農協が管理する圃場で収穫体験を行い、三浦市内の周遊やJAよこすか葉山農産物直売所「すかなごっそ」の視察も行った。日常生活に馴染みのない畑での作業に、学生たちは喜びの表情を浮かべた。

